

Jトラスト

韓国金融事業など順調

3Qの収益は回復

期経営計画で明らかにしたように、従来の短期的なM&A（企業合併・買収）型の事業拡大から、銀行業を中心とした持続的な利益拡大へのステージアップを目指しており、それが着実に進展している。

2016年3月期の第3四半期（3Q、4―12月）の営業収益は579億円（前年同期比20%増）、営業損失21億円（前年同期は33億円強の損失）となった。国内金融事業が計画を上回る進捗

（しんちよく）となっているほか、韓国金融事業が順調。

韓国では昨年1月にJT貯蓄銀行、3月にJTキャピタルの株式を取得して、貯蓄銀行業、債権買取および回収事業、リース・割賦事業を傘下を持つ総合金融グループとなった。3QはJT親愛貯蓄銀行、JT貯蓄銀行など4社すべてが営業黒字だった。ちなみに、JTトラストブランドの醸成が成功して月間新規貸付金額は昨年12月には14

09億ウォンと過去最高を更新した。

東南アジア金融事業では、「インドネシア銀行ベスト頭取賞」受賞の安藤律男氏を迎えて体制を強化。中期計画を遂行していく。また、投資事業はグループリース株式の転換社債評価益や転換社債実現利益が貢献した。16年3月期からIFRS（国際財務報告基準）

の任意適用を予定しており、営業収益819億円、営業利益75億円という予想を出している。

なお、3QのIFRS基準の数値は未監査なもの、営業収益573億円、営業損失6億円だった。四半期ベースでは10―12月期の営業利益は33億円（7―9月期は21億円の営業損失）と黒字化している。

金融事業を展開するJトラスト（8508・2部）の収益改善が鮮明になっている。

同社は昨年策定した中